

## 令和2年度第3回高齢者保健福祉推進委員会の概要

1 日時 令和3年1月20日(水)18:45～20:45

2 場所 高知城ホール 4階 多目的ホール

3 出席者

【委員】安田委員、森下委員、野村委員、西森委員、宮本(寛)委員、宮本(謙)委員、新谷委員、福島委員、廣内委員、徳弘委員、土居委員、森田委員、田村委員、山中委員(18名中14名出席)

4 議事内容

(1)「高知県高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業支援計画(仮称)」の素案について

(2)「高知県認知症施策推進計画」(案)について

(3)「第5期高知県介護給付適正化計画」(案)について

### 【意見要旨】

(1)「高知県高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業支援計画(仮称)」の素案について

(委員)

・中山間地域における訪問看護サービスの確保について、遠隔地への訪問の際の不採算経費を助成とあるが、在宅医療のなかには薬物療法もあり、また、高知県内には無薬局地区も多くある。訪問薬剤や服薬指導についても不採算であっても訪問しているケースもあると思うが、こちらについての検討状況はどうか。

(事務局)

・介護サービスや訪問看護については県独自の補助を実施しているが、訪問薬剤については制度化していないので担当部署に伝えたい。

(委員)

・障害等を理由とした第2号被保険者について、主体的に支援できるようピアサポートという文言を加えてはどうかという点について、素案では、認知症のご本人からの発信支援として記載されているが、認知症でない要介護者もいる。

・P89(高齢者の日常生活を支えるしくみづくりの推進)の最後の段落に、障害のある当事者という文言を加えたり、P93(地域の担い手づくりの推進)に、障害がありながらもリーダーシップを発揮できる方もいるため、自分自身の障害という体験を活かしてボランティアのコーディネーターになって活動するというような文言を盛り込んではどうか。

・障害があっても回りから支援を受けている方については自尊心を失っているケースもあ

るため、自尊心を高めていただくためにも、県の計画に盛り込むことでその方たちが活動する根拠となるので、是非盛り込んでいただきたい。

(事務局)

・ご提案の形で盛り込みたい。

(委員)

・第8期で追加した項目として、社会福祉施設等における感染症対策の記載あるが、施設は当然であるが、現在、通所系や地域の集会等についても大幅に制限されている状況があるため、疫学的に分かっていることとして、メンタルに関することや移動や外出の制限による心身機能の低下などの影響について配慮する必要があることに関しては記載すべきではないか。

(事務局)

・新型コロナウイルス感染症の影響について、通いの場の自粛については、県としても心身機能が低下しないよう自宅で運動できるようなチラシの配布の取組を実施しているため、心身機能の低下についても触れて追記をしたいと思います。

(委員)

・中山間地域の介護サービスについて、訪問看護にはリハビリも多く入っているなかで、最近では看護よりリハビリが多い状況もある。遠隔地から赴く際の加算があると説明があったが、通所や訪問のサービス事業所を独自で中山間地域の近くに立ち上げることに對する支援についても中山間地域のサービスを確保するという趣旨としては同義だと思いが、検討いただけないか。

(事務局)

・中山間地域にサービス提供を行う場合に県独自で報酬に上乗せで移動コストを補助している。ご提案の内容については、その地域にどれだけニーズがあるかを含めて研究させていただく。

(委員)

・在宅歯科連携室を東部にも開設いただき、昨年度は461件訪問歯科のうち、260件について歯科衛生士が訪問、さらに210件が訪問診療に繋がったということであまり進んでいる。

・在宅研修事業として、障害者も含むが、摂食嚥下機能を見れる歯科医師の育成に對する補助を実施していただいている。

・歯科医師も1人でやっているところも多いので、安芸芸西地域には訪問に片道1時間かかるケースもあり、半日閉めていないといけなケースもあるため、そういった取組を支援してほしい。

・在宅歯科医療機器の貸し出しも県から行ってもらっているが、レントゲンなどは高額なため修理に100万円くらいかかるケースもあり、修理費に対する補助についても検討いただきたい。

・また、新型コロナウイルスの影響で、施設では訪問診療を受け入れてもらえないケースもある。車のなかで訪問診療ができるような専用車の購入に対する補助など検討いただきたい。

・あんしんセンターでは、高齢者だけでなく障害者も受け入れているが、障害者については、全身麻酔をして治療をしたいと考えているので、検討いただきたい。

(事務局)

・在宅歯科連携室の委託も受けていただき、訪問歯科診療の件数も伸びている。歯科衛生士の事前訪問件数も増えてきている。機器の整備や摂食嚥下評価ができる歯科医師の養成については別途で今後も協議していきたい。

(事務局)

・全身麻酔の実施はできるだけ早くできるように検討及び協議したい

(委員)

・高知県は介護人材の確保や定着促進に力を入れている。中山間地域で訪問介護の事業所が人材不足で廃止となることが増えていて、施設入所しないといけなくなるケースがある。ヘルパーの量が大切だと思うが、訪問介護の人材の過去との比較や取組があれば知りたい。また、各市町村でも介護人材確保については悩んでいるので実態把握と市町村への支援をお願いしたい。

(事務局)

・介護人材については、需給推計はまだ国の準備が遅れていて出来ていない状況。中山間地域でのヘルパーの資格取得のための研修を実施する際の市町村への補助、人材の裾野を広げるため、入門的研修を県でも実施してヘルパーの科目の一部が免除される。来年度予算についても要望を反映できるように考えている。

(委員)

・介護予防についてリハビリテーション3団体で派遣する人材の研修を担っているが、市町村は一本釣りで見学の方を講師としているケースが多いため、県と市町村が連携して研修を受講した方が派遣されるように是非活用してほしい。

・現在は、リハビリテーション専門職のほとんどが医療機関や施設に所属している方が多いため、今後は団体としての体制を整備することで団体から職員を派遣することも検討していきたい。

(事務局)

・市町村が実施する場合に派遣を行っているが、市町村との連携を行い、ボリュームに

よって事業化も検討したいが、引き続き、市町村への普及も含めて対応を検討したい。

(委員)

・地域のなかでは自主組織が多く活動しているので、自主組織の実態を把握してもらいたい。関わっている自主組織は結成して20年目になるが、自殺ゼロで取組ができています。高齢者の家庭訪問をする際には、あつたかふれあいセンターにも支援してもらっている。地域の自主組織は頑張っているのですがそういう文言を入れてもらえると分かりやすくなると思うので、情報収集をしてもらいたい。

(事務局)

・地域での取り組みを進めるということで、県としてもあつたかふれあいセンターを意図的に整備してきたところ。自主組織には自殺予防、認知症の見守りなど活躍いただいている。本文のなかでも自主組織の活性化にも触れることを検討したい。

(委員)

・中山間地域では訪問看護の事業所が近くにあるにも関わらず、緊急対応や24時間対応が難しいという理由から、24時間対応できる遠隔地から訪問するケースがある。中山間地域の近くに24時間対応できる事業所が近くにあることが望ましいので、市町村の方でもサービスを充足させるに当たって、サテライトで事業所の一部を拠点として整備をするような後方支援をすることが必要ではないか。

・訪問介護の人材については枯渇しているなかで、効率的にサービス提供ができることも大切であり、他の事業所とのマッチングを行い、事業が継続できるようなバックアップを検討して欲しい。

(事務局)

・24時間対応の事業所については重要だと思うが、ニーズとの関係で事業が難しいという声もある。中山間地域ではサテライトも活用していきたいと考えている。今後どのような支援できるかは検討していきたい。在宅療養推進懇談会では、利用者の集約やサービスと住まいとの連動も必要ではないかと指摘を受けているので検討していきたい。

(委員)

・訪問介護事業所については、少数のサービス提供責任者と多数のパートでないと赤字にならない状況があるが、安く来てくれるパート少なくなっている状況で赤字になっているのではないかと指摘を受けているのではないかと指摘を受けているので検討していきたい。ICTを活用した服薬管理という文言があったが、認知症高齢者の服薬管理にヘルパーが関与しているケースがあり、ヘルパーが関与しなくても済むようになることは人材的にも有用だと思う。

(事務局)

- ・医療と介護の連携として、医療と介護職の情報連携できる仕組みとして、高知ケアラインという取組を安芸圏域で実施しており、順次県内全域に拡大していきたい。
- ・あったかふれあいセンターなどで服薬管理の支援を検討していきたい。

(委員)

- ・フレイルの予防は重要であるが、フレイルという概念は県民にまだまだ理解されていないと思うが、どのように周知徹底していくのか。

(事務局)

- ・フレイルという概念になじみが薄いため、今年度から各圏域でフレイルに関する講演会を実施している。今年度も7箇所で開催している。
- ・県としても、市町村向けにフレイル予防推進ガイドラインを作成して、手引きとしてもらう取組を実施しているが、今後とも力を入れていきたい。

(委員)

- ・栄養改善の取組の記載があるが、高齢者の低栄養として一般的にBMIが18.5以下などあるが、BMIは低体重であり低栄養ではない。低栄養という言葉の注釈を詳しく工夫して欲しい。

(事務局)

- ・低栄養について注釈を入れたい。

(委員)

- ・福祉避難所について、令和2年9月末で34市町村225施設が設置されていると記載があるが、第7期の計画では200施設と記載があるなかで、しかしながら不足していると記載が同じであるが、どのくらいを目指すのか。

(事務局)

- ・担当課に確認する。

(2)「高知県認知症施策推進計画」(案)について

(委員)

- ・権利擁護について、成年後見制度の広報や啓発も重要であるが、高知県での受け皿の設置が全国と比べても遅れている。国の定めた成年後見利用促進法に基づく市町村の計画づくり、中核機関の設置やネットワーク作りについて令和3年度が期限となっているなかで、市部を中心に一部に留まっている。市町村の自助努力を支援するスタンスも重要であるが、もう少し踏み込んで、県がイニシアチブを持って取り組み、県下全域の空白地帯をなくすように対応するよう検討すべきではないか。

(事務局)

・これまでも市町村の取組が遅れているとご指摘いただいております、圏域別の意見交換会の実施を行い、市町村の取組が早く進むように対応してきたが、前面に出た支援についても取組を検討したい。

(委員)

・認知症コールセンターの電話相談をしているが、昨年度、オレンジドクターに認知症コールセンターのチラシを配布してから電話相談の件数が増えているが、高齢者の子どもが県外にいる場合、コロナで帰省が出来ていないなかで、子どもから高知の情報が欲しいので家族の会に加入したいという依頼が増えている。

・単身高齢者や老々介護の方について、県外の家族へのサービスなどの情報発信の支援もお願いしたい。

・認知症の方の車の運転に関する相談も増えてきている。

(事務局)

・認知症の高齢者の方に関する在宅の方の見守りとして、徘徊に関してICTを活用することに取り組む。見守りについても対応策を検討していきたい。

・PRはホームページでも行いたい。

・認知症の方の車の運転について、県警から免許の返納件数など定期的に件数の報告を受けているが、今後も連携していきたい。

(委員)

・高知県警が地域のSOSネットワーク等(域内捜索)について、数年前に取組を始めていると思うが、高知県警に登録した携帯電話から家族による行方不明等の情報提供があった場合に、警察がLINE等で情報発信を実施して、発見されたかどうか把握できるシステムがあると思うので、進捗状況の把握をしてもらうとともに、登録している人を増やす工夫をしていただきたい。

(事務局)

・徘徊の模擬訓練をしているところもあるが、市町村により濃淡があるため、県警と協定を結んだうえで取組を強化したい。

以上